静岡新聞
夕刊
8月27日(月)
〒422-8033 静岡市駿河区登呂3-1-1
静岡新聞社
電話〈054〉282-1111
月決め2,980円 本体2,759円 消費税221円
1部50円（消費税込み）
©静岡新聞社2018
浜松総局 浜松市中区旭町11-1 プレスタワー内 電話〈053〉455-3355
東部総局 沼津市魚町1 サンフロント内 電話〈055〉962-0380

静岡瀬名病院 静岡市葵区瀬名4620-1 ☎054-264-2111
静岡広野病院 静岡市駿河区広野1-494-8 ☎054-258-6666
ケアセンター瀬名 老人保健施設 静岡市葵区長尾39-5 ☎054-264-2221
医療法人社団 恒仁会
http://www.koujinkai-g.or.jp/

笑顔のぬくもり贈り物

①「誕生会」

非行少年の傍らで　更生保護女性会

非行少年の傍らで、立ち直りを願い、行動する女性たちがいる。更生保護女性会、略して「更女」。県内の先駆け、富士宮地区が今年結成60周年を迎えるなど、歴史ある全国組織のボランティアだが、一般にはあまり知られていない。その姿を追った。

◇

「おばちゃん、ううん、おばあちゃんかもしれない。一緒に楽しく縫いたいです」。少年院「駿府学園」（静岡市葵区）で、同市駿河区更生保護女性会の会長佐藤房代さん(68)は、県内全32地区更女が2カ月に1度交代で開く「誕生会」の始まりを告げた。在院者19人は「お願いします」と大きなあいさつ。担当の法務教官が一人一人をじっと見つめた。

誕生会は手作り体験を通じ、大人への信頼感を取り戻そうと企画。今回の〝贈り物〟は刺し子模様の布巾縫いだ。2人に更女1人が付き添う。裁縫は初めてと聞けば一針一針褒め、縫い目の間隔は良いかと問われれば「いい感じね」と背中を押す。名前や住所、犯した罪を聞かないという以外は何げない普通の会話。丸刈りの顔に笑みが浮かぶ。

1人につき3本の針を確認して会は終わる。凶器ともなる針の遺失は許されない。わずか50分の一期一会を更女は大切にしている。

少年院送致となった非行少年の多くに共通する背景は「家庭にも居場所がない」（佐藤浩一同学園次長）こと。同学園は、非行の過半を窃盗が占め、全員が初めての少年院。半年以内の社会復帰を目指して矯正教育を受ける。家庭に土台を残してはいるが、「褒められる」「認められる」経験は乏しく、悪友という居場所を見つけて非行に走る。

少年たちの自己肯定感を育むために、表彰制度がある。例えば歯磨きの時、順番を破る人を注意できたら規律を守ったとして表彰する。褒める時は全員の前で褒め、叱る時は個別に叱る。自己肯定感の低い少年は、はた目にはささいなことでも激高しやすいという。

教官が最初に学ぶのは「少年は学びたがっている」ということ。場に即し、社会で行動できるための技術を教え、再びの非行を防ぐ。その一例があいさつだ。自分が変われば周囲も変わる。誕生会は在院者にとっては「普通のお母さん」が、あいさつにどう応えてくれるかを確認する場。そして、確信できずにいる自らの誕生を祝ってもらえる喜びの場。

約1カ月後。「ていねいだねって褒めてくれた」「笑顔で教えてくれた」とお礼の手紙が更女に届いた。「おばあちゃんに教わったことを思い出した。孫と言ってくれた」。刺し子ができたうれしさ以上にぬくもりを感じたことも記されていた。

佐藤さんは「おばあちゃん」の文字を見た瞬間、少し安堵（あんど）した。2年前、同学園の茶摘み会で、保護者が来ることができない在院者と一緒に過ごした。傍らにいない家族を思い、泣いていた。一緒に泣いた。この少年には、帰ることができる家庭があるのかもしれないーと。

更女に入会後、保護司も任されている。保護司としては厳しい目も持って更生を支えるが、更女として信じたいの。味方をしてくれる人がいるって幸せでしょ」

「誕生会」で在院者に声を掛ける静岡市駿河区更生保護女性会会長の佐藤房代さん（左）
＝同市葵区の少年院「駿府学園」

＜メモ＞更生保護制度は、元犯罪者や非行少年の社会復帰を助けるとともに犯罪予防活動を行う。地域で更生保護を支える民間ボランティアには保護司（4月1日現在、県内1356人）、更生保護女性会（同3665人）、BBS会（同123人）、協力雇用主（同495社）などがある。保護司は非常勤国家公務員だが、給与は支給されない。更女は任意組織。

こちら女性編集室　Women's CHOICE

自動運転タクシー〝発車〟

世界初、公

実証実験で、東京・大手町から自動運転でタクシー＝27日午前

理系高生 大学と

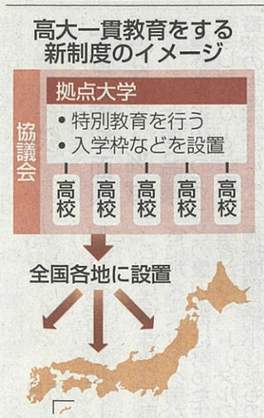
文科省、来

文部科学省が、理数系科目の得意な高校生を地域の中核的な大学に積極的に受け入れる入学枠を設けるなど、高校と大学で一貫した専門的な教育を行う新制度を始める方針を決めたことが27日、分かった。研究費不足などで「科学技術立国」の地盤沈下が指摘される中、日本の科学界を担う研究者の卵を育成することを目指す。

初年度は全国から参加校を募り、モデルケース1カ所を選ぶことを想定。その後は大都市圏に偏らないよう配慮しながら、数年かけて数カ所に拡大する方針だ。関連予算を2019年度概算要求に盛り込む。

将来は優秀な生徒が高校卒業前に大学に入る「飛び入学」につながる可能性もある。一方、大学間や高校間で格差が広がる恐れもあり、多くの生徒が機会を得られるバランスの取れた運用が課題になりそうだ。

新制度は、重点的に理数系教育を行う現行の「スーパーサイエンスハイス



紙面から

フェリー存
北朝鮮、拘
夏休み明け
米でゲーム
小説